

令和3年度練馬区幼保小連携研修会の開催実績について

1 管理職対象

(1) 研修会概要

開催日	令和3年7月5日(月)
内容	1 講演 【主題】 幼児期と児童期をつなぐ学びの実現 ～非認知的能力の重要性と幼保小連携～ 【講師】 千葉大学教育学部 幼児教育教室 教授 砂上 史子

※2回開催予定を変更

(2) 参加者園(校)数

	校(園)数	出席校(園)数	出席率(%)
区立幼稚園	3	3	100%
区立保育所	60	46	77%
区立小学校	65	41	63%
私立幼稚園	38	7	18%
私立保育所	124	68	55%
認証保育所	17	0	0%
計	307	165	54%

※YouTube 配信 7月28日～8月10日 189回視聴

(3) 研修会アンケートまとめ(主な意見)

項目1 本日の講演について

【保育所・幼稚園】

- ◆非認知的能力について具体的で分かりやすかった。
- ◆質の高い幼児教育・保育が良い人材育成につながり、保育環境作りについて、改めて考えを整理することができた。
- ◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について改めて園で見直し、接続期にしっかり対応していきたいと思った。
- ◆遊びを中心とした学びの環境・保育環境づくりについて、改めて考えを整理できた。
- ◆乳幼児期の保育(教育)の内容を小学校の先生にご理解いただくことは、園運営をしていく上でとても心強く感じた。

【小学校】

- ◆学びの形成に関する調査が参考になった。レディネスが大切であることが分かり、育ちの系統性(発展性)が見えた。
- ◆非認知的能力という用語、概念を切り口に豊富な資料と丁寧な説明で、小学校教育の立場でも分かりやすかった。
- ◆幼児期にどのような力をつけてあがってくるのか参考になり、「遊び込む」とは、小学校低学年での体験差につながり、学びの豊かさにも大きく影響していくと感じた。
- ◆講演を参考に、自校のスタートカリキュラムについて検討し、ねりま接続期プログラムを再度詳しく読む必要があると感じた。
- ◆『幼児教育の経済学』は、興味深く、幼児期の育ちが将来に渡り生活をよりよくするものだと感じた。

項目2 企画に対する意見・要望について(研修会の内容、講師選定など)

【保育所・幼稚園】

- ◆研修後の意見交換(園での様子・学校での様子)ができるとよい。
- ◆他園のアプローチカリキュラムをグループ討議などで聞けると参考になる。
- ◆非認知能力を大切にしたいそれぞれの園、学校での取り組みなども紹介してほしい。
- ◆気になる子等の接続期に必要なことを教えていただきたい。
- ◆今回は幼児教育専門の方でしたが、小学校教育の専門の方の話も聞いてみたい。
- ◆幼保小の連携強化のために、地区ごとに話し合うだけでなく、連携する小学校や園を決め、より実行的・具体的な連携を実現してほしい。
- ◆来館できない者への配慮として、YouTube 配信はありがたい。活用したい。
- ◆Zoom 等オンラインでの開催を検討してほしい

【小学校】

- ◆幼保小の交流がなかったことが残念。講演をもとにテーマを決めてグループワークできるとよい。
- ◆今回のような幼保小ともに参考になる理論の講演を期待している。
- ◆発達障害等の子供の小学校入学時の連携の在り方。
- ◆引き続き幼児・児童の発達についての研修や保護者啓発の在り方。

講師の希望

- ◆汐見先生 ◆大豆生田先生 ◆砂上先生 ◆特別支援関係の講師

2 担任対象

(1) 研修会概要

開催日	令和3年8月2日(月)、8月3日(火)
内容	1 講演 【主題】幼保小の円滑な接続を目指して ～スタートカリキュラムの具体例より～ 【講師】練馬区立仲町小学校 校長 米田 典子 2 意見交換

(2) 参加者園(校)数

	校(園)数	出席校(園)数	出席率(%)
区立幼稚園	3	3	100%
区立保育所	60	45	75%
区立小学校	65	45	69%
私立幼稚園	38	10	26%
私立保育所	124	61	49%
認証保育所	17	0	0%
計	307	164	53%

(3) 研修会アンケートまとめ (主な意見)

項目1 本日の講演について

【保育所・幼稚園】

- ◆スタートカリキュラムについては初めて学んだが、小学校へ送る側は、安心して小学校へ慣れていける内容であるので、安心できた。(多数)
- ◆スタートカリキュラムを組むことによって、幼・保の生活から小学校の生活に無理なく馴染んでいけるようにしているのだと知ることができた。今、園でしていることとつながると思った。
- ◆保育園と幼稚園でやっていることの大切さを実感できたが、もっと小学校側とすり合わせていかないとスタートカリキュラムの意味・必要性はないと感じた。
- ◆小学校の先生方には、遊びを通して育まれることについて、遊びの中に学びがあることを分かっていただけの内容だった。
- ◆自主性、意欲的等、学力ではなく、生活そのものを楽しむ力を育むことの大切さ、重要性を感じた。
- ◆気付きの質を価値づける、困った時が学びのポイントなど、多くの共通点があり、そこを大事にしていけるといいと思った。

【小学校】

- ◆スタートカリキュラムをしっかりと取り組んでいくと、子どもの自主性が育っていくことが今年度実感できた。
- ◆スタートカリキュラムを実践することで、円滑な接続が図れる気がした。しかし、余剰の時間も少なく実施することが難しいと思った。
- ◆初めて1年生を担当し、分からないことが多い4月だった。9月に、スタートカリキュラムをしてみたい。生活科、教科を横断的に関わらせていこうと思う。幼保の先生方の幼児期に身に付けてくれた力に改めて感謝したい。
- ◆スタートカリキュラムについて、意識して少しずつ取り入れて4月をスタートさせたが、今日の講演を聞いて、十分だったかと考えさせられた。9月、1月からもぜひ取り入れたい。
- ◆自校のスタートカリキュラムを見直す必要があると感じた。子供たちと一緒に考える大切さを知った。具体例があったので、とても分かりやすかった。
- ◆スタートカリキュラムについて新しい知見が得られたのは本当に良かった。どの子も入学前は、誇り高き年長さんであったことを認識したことで、スタートカリキュラムすべきことが明らかになった。4月の段階で、(もしくは3月段階で)学べていれば、スタートカリキュラムをより工夫できたように感じる。これからの学習に生かしていきたい。

項目2 企画に対する意見・要望について(研修会の内容、講師選定など)

【保育所・幼稚園】

- ◆小学校の先生の意見交換を、今後もぜひ継続してほしい。(多数)
- ◆交流の時間がもう少し欲しかった。(多数)
- ◆特別な支援を必要とする子の連携について講演や意見交換ができるとよい。(多数)
- ◆もう少し具体的な内容(1年生の姿など)聞けたり、話せたりするとよい。
- ◆同じ地域の幼保小の交流会が年度内に再度あるとよい。
- ◆幼稚園の生活ビデオ(文科省作成)を見て、話しあったりするなど、具体的な場面があると話し合いがしやすい。
- ◆就学に向けての幼保ではどのような取組をしているのか、また、必要かの話をもっと具体的に聞きたい。
- ◆就学前の子どもの姿を各保育園で統一するには、どんな工夫があると良いか話し合っていきたい。
- ◆幼稚園・保育園の先生の視点からの講演も聞いてみたい。

【小学校】

- ◆幼保の先生と交流できたのが良かった。話し合いの時間をもっとほしい。(多数)
- ◆今後も交流できる場があると良い。(多数)
- ◆定期的を開催してほしい。
- ◆意見交換ができ、幼稚園や保育園での子どもたちの姿がよく分かった。オンラインでは

感じるができないことが多くあった。

- ◆意見交換ができ、幼稚園や保育園の指導の見学や実習、1日の過ごし方や先生がどのような業務をしているのか知りたい
- ◆実際の現場をお互いに見る機会があれば良いと思う。
- ◆入学前の様子を見る機会を企画してほしい。
- ◆幼保の先生方が普段の指導において、どのようなことに重点をおき指導しているのか、具体的に知りたい。

講師の希望

- ◆米田典子先生 ◆養老孟司先生

3 令和4年度幼保小連携研修 講師案

【6月】（管理職対象）

- 6月21日(火)、6月28日(火)
- 星山 麻木（明星大学教授）
- 仮「気になる子の理解と幼保小連携」

【8月】（担任対象）

- 7月26日(火)、7月27日(水)
- 米田 典子（仲町小学校長）
- 幼保小の円滑な接続を目指して
～スタートカリキュラムの具体例より～